



成熟したオス(加西市)



やや若いオス(三田市)

マイコアカネ (舞妓茜蜻蛉)

Sympetrum kunkeli

体長 33~35mm。成熟したオスは、青い顔がよく目立つ。この色を舞妓さんのお化粧と見て、この名がついた。メスにも少し青くなる個体がある。マユタテアカネ、ヒメアカネによく似ていて、メスや若いオスでは区別が難しい。

9月~10月に多い。

平地から丘陵地の、ため池のまわりの開けた湿地帯などに見られる。各地に生息しているが、あまり多くは見られない。



マイコアカネが多く見られる湿地(加西市)
ため池のまわりに広がる湿地によく見られる。



若いメス(三田市)
湿地の草むらにいる

ヒメアカネ (姫茜蜻蛉)

Sympetrum parvulum

体長 30~34mm。アカトンボの中では最も小さい。「姫」は小さくてかわいらしいという意味。マイコアカネに似ているが、オスの顔は灰色。メスは、他のアカトンボに比べてまだら模様があざやかで美しい。

8月~10月。開けた湿地や湿地に見られる。分布は局地的だが、放棄水田などで、ときに高密度に生息していることがある。



高い木のでっぺんによくとまる(神戸市北区)



成熟したオス(小野市)

ネキトンボ (根黄蜻蛉)

Sympetrum speciosum

体長 40-43mm。がっちりした体型。

木立に囲まれた池にすむ。高いところが好きなトンボ。夏の間は、水辺から離れ、木のでっぺんに突き出た枝先によくとまっている。はねに特徴があるので、下から見上げていても、すぐにこの種とわかる。また、山の頂上に見られることも多い。

ほかの赤とんぼよりも早く色づき、8月～10月に成熟個体が見られる。秋が深まると、ため池にやってきて、交尾産卵する。

はねが黄色いアカトンボには、他にオオキトンボがある。平野部のため池にすむ種で、生息地は少ない。



若いメス(中町)

キトンボ (黄蜻蛉) *Sympetrum croceolum*

全身オレンジ色のトンボ。若い個体はショウジョウトンボに似ている。他のアカトンボより遅く、9月頃から羽化し、秋おそくまで見られる。水生植物の豊富なため池にすむ。



成熟したオス(社町)
撮影:東 輝弥

マダラナニワトンボ (斑浪速蜻蛉) *Sympetrum maculatum*

中部地方以北にすむムツアカネによく似ている。平地から丘陵地の開けたため池にすむが、近年絶滅が心配されている。

ナニワトンボ (浪速蜻蛉)

Sympetrum gracile

体長 31～36mm。オスは全身に青い粉をふき、眼も青くなる。シオカラトンボを小さくしたような感じで、一見、アカトンボのなかまとは思えない。メスは黄色と黒のまだら。顔に「眉」があるが、マユタテアカネとまちがえることはない。

8月～10月に見られ、平地から丘陵地の、木立のある古いため池にすむ。池のまわりの枯れ枝にとまっていることが多い。

わが国の固有種で、しかも関西ローカル。「浪速」は大阪のことだが、兵庫県の瀬戸内海側に産地が多く、三田盆地では比較的ふつう(少なくとも数年前までは)。

「赤とんぼ」とは、赤いトンボのこと。「アカトンボ」とは、トンボ科のアカネ属(アカトンボ属)に含まれるトンボのことで、こちらは学術用語。アカネ属は、体の色ではなく、はねの脈などで定義される。そのため、「アカネ属ではない赤いトンボ」や、「赤くないけれどアカネ属のトンボ」もいる。

ウスバキトンボ (薄翅黄蜻蛉)

Pantala flavescens

体長 45mm 内外。はねは幅広く、眼が大きい。

5月～11月に見られるが、真夏のお盆すぎに多い。毎年春に南の国からやってきて、発生をくり返して北上する。広場や田んぼの上に群れ飛んでいて、アカトンボと異なり、長時間飛び続け、とまるときはぶら下がる。水たまりや学校のプールにも発生する。



ぶら下がってとまる

広場で群れるウスバキトンボ(三田市)



頭でっかち

はねが大きい

ウスバキトンボ

ショウジョウトンボ (メス)

しっぽは平たく、体型はシオカラトンボに似る



成熟したオス(三田市) 池の回りでなわばりをつくる

ショウジョウトンボ (猩猩蜻蛉)

Crocothemis servilia

体長45mm内外。オスは全身がまっ赤に色づき、メスは黄色い。はねのつけ根はオレンジ色。腹部は平たく、体型はアカトンボよりもシオカラトンボに似ている。性質もよく似ており、6月～9月、各地の田んぼやため池で、シオカラトンボにまじってふつうに見られる。

「猩猩」は、古代中国の伝説上の怪獣。朱色であるとされる。

ハッチョウトンボ (八丁蜻蛉)

Nannophya pygmaea

体長 18～20mm。トンボとは思えない小ささ。いても気づかない。オスは全身がまっ赤になり、メスは黄色と黒のまだら。7月～8月、湿地や休耕田に見られる。

成熟したオス(社町)

撮影:鈴木 武

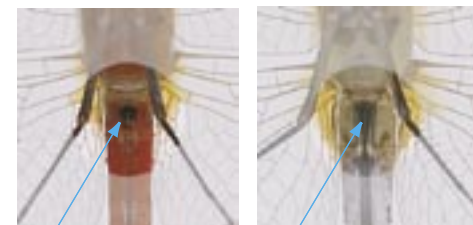
代表的なアカトンボのはね

まず、はねの特徴を見てから、つぎのページへ進もう

おびがある	先が黒い	はねは透明	つけねが黄色い
			
ミヤマアカネ	ノシメトンボ コノシメトンボ リスアカネ マユタテアカネのメス	アキアカネ ナツアカネ マユタテアカネなど	ネキトンボ キトンボ

オス、メスの見わけかた

アカトンボのメスは、赤くならず、若いオスも赤くない。オスカメスカわからないときは、しっぽのつけ根を、横からか、裏から見るとよい。なれば簡単に区別できる。



オス
黒いときがある (生殖器)

メス
何もなし

赤くないアカトンボ



生きているときは眼も青い

♂

ナニワトンボ

メスと若いオスは黒地に黄色のまだらもようで、他のアカトンボのメスにやや似ているが、小型で胸の側面に太い黒スジがある。

マダラナニワトンボは、オスも青くならず、ナニワトンボのメスに似ている。胸部側面の斑紋で区別できる。

はねは黄色い

はねのふちも黄色い

♂

キトンボ

オオキトンボは、ずっと大型ではね全体がうすい黄色。

♂

♀

あざやかなオレンジ色

♂

♀

胸に太い黒スジが1本

ネキトンボ

はねの先が黒い

顔に黒い「まゆ」

胸に太いスジはない他の3種より小型はねの先は、黒いものと、透明なものがある

♀

マユタテアカネ

腹部は「のしめ」もよう

♂

♀

真ん中の黒いスジは胸の上端まで届く

♂

♀

ノシメトンボ

真ん中の黒いスジは胸の上端まで届かない

♂

♀

リスアカネ

真ん中の黒いスジは後ろのスジとつながる

♂

♀

コノシメトンボ

はねは透明

黒い「まゆ」がある

♂

マユタテアカネ 強くそりかえる

真ん中やや前方に短い黒スジ

♂

マイコアカネ

「まゆ」はないか、ごくわずかオスは顔が灰色

♂

♀

いちばん小さい

産卵管が突き出る

ヒメアカネ

真ん中のスジは細く短い

♂

♀

タイリクアアカネ

真ん中のスジは、ほぼ中央にあり先端は直角

♂

♀

ナツアカネ

真ん中のスジは、やや後ろよりで、先端はぼやける

♂

♀

アキアカネ

はねにおびがある

はねの先は透明

「縁紋」は、ピンク色または白色で、よく目立つ

♂

♀

ミヤマアカネ

はねのつけ根は黄色っぽい。成熟個体は体の色が濃く、はねの脈は赤っぽくなる。

♂

♀

タイリクアアカネ

♂

♀

アキアカネ

フチ図鑑 兵庫の赤とんぼ
著者 八木 剛
協力 東 輝弥 (写真提供)
鈴木 武 (写真提供)
澤 七緒子 (表紙デザイン)
発行日 平成十七年 (2005年) 十月一日
発行者 兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
電話 079-559-2001 (代)
<http://hitohaku.jp>
印刷 ウニスガ印刷 (株)
(文部科学省地域こども教室推進事業)



赤とんぼ

夕焼け小焼けの 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か



山の畑の 桑の実を
小籠に摘んだは まぼろしか

十五でねえやは 嫁に行き
お里のたよりも 絶えはてた

夕焼け小焼けの 赤とんぼ
とまっているよ 竿の先

三木露風 作詞
山田耕筰 作曲